

社報 御霊本宮

第77号

発行者

御霊神社本宮
宮司 藤井利夫
五條市霊安寺町
0747-23-0178

発行日

令和3年
5月1日

朔日詣り

「朔日詣り」は「ついたちまいり」

と読み、朔日参り、一日参り、一日詣りとも書きます。朔日詣りとは、文字

通り、月の始めである一日に神社に参

詣することをいいます。昔の人は毎月

一日と十五日に神社にお参りしまし

た。現在も一日と十五日にお参りする

人が多いようです。

それでは、なぜ一日と十五日なので

しょうか。これには陰暦が関係してい

ます。現在使われている暦は、太陽の

動きによるものですが、陰暦は月の満

ち欠けによりつくられています。

陰暦朔日は新月にあたり、十五日は

満月にあたります。朔日は物事が始ま

る日であるとし、十五日は物事が満ち

る、あるいは成就する日と考えられて

いました。見えない新月が徐々に膨ら

み始め、満月になっていく様子を見れ

ば、誰しもそう思うことでしょう。こ

の朔日と十五日に神社に参る風習は、

江戸時代には一般化されていたよう

です。

朔日詣りの時間や作法などに特別

なものはありませんが、特に朔日は少

し早く起きて、早朝に参る人が多いよ

うです。境内に入って、その清々しい

気を感じ、日々の生活の中で疲れた心

を癒しましょう。そしてまた、心新た

に感謝の心を持つことで、より一層人

生が豊かになっていくものと思いま

す。神社には心や体をリフレッシュさ

せる何かがあります。時間があれば森

の中を歩くのもいいですね。

拝殿まで行かなくても、鳥居の前で

一礼する人も見かけます。人それぞれ

現在は太陽暦が使われていること
から、一日が新月、十五日が満月とい
うことはほとんどありません。ちなみ

に今月の新月は十二日、満月は二十六
日です。

余談ですが、二十六日の満月はスー

パームーンと呼ばれ、今年最大の満月

だとか。月と地球の距離は一定ではな
く、近づいたり遠ざかったりしている

ため、月の大きさの見え方が違いま

す。といっても、どれだけ大きくなっ
たのかよく分かりませんが。

さらに余談ですが、このスーパーム

ーンの日には皆既月食になるとのこと

です。午後六時四十五分頃から欠け始

め、八時十一分頃から皆既月食が十四

分間あり、九時五十二分頃にもとの満

月に戻るようです。

なお、奈良県のこの日の月出時刻は

午後八時五十三分なので、月が東の空

から現れるときには、わずかに欠けた

満月となっています。これを月出帯食^{ぼけしつしつ}と呼ぶということです。

文化十一

年（一八一

四）に奉納

された狛犬

は、鳥居の

前の参道入

口に設置さ

れています。

一見、お

かっぱ頭のように見える愛らしい狛

犬です。耳は小さく、歯に牙はありま

せん。たてがみは、背中に流れるよう

にあり、巻き毛も少なく、尾は七方向

に放射線状に伸びています。脚の指が

長く、特に後ろの脚の指はとても長いよ

うに思います。

恐ろしく睨み付ける顔ではなく、筋

肉隆々でもなく、牙もない狛犬は、町
人文化が栄えた時代の世相を表わし
ているかのように感じます。

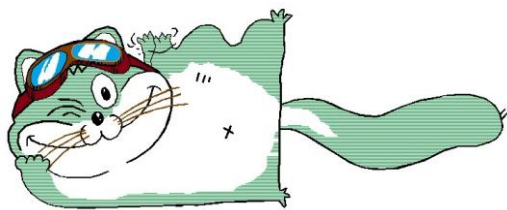


ムササビはびんく

御霊本宮の森にはムササビが棲んでいました。森の中でコンサートが開かれていた平成元年から二十二年頃まで、ムササビは大本にできた穴に棲み、夜になると境内の森の中を滑空し、樹木をよじ上り、茂みを走り回っていました。

本宮では「鎮守の森コンサート」が毎年五月上旬に行われていました。はじめは森の中にステージをつくり、聴衆は草むらに座ったり、敷物を敷いて寝っ転がったりして音楽を楽しみました。

五月の陽光が樹間から差し込み、さわやかな風が流れて、とてもゆったりした時間を過ごすことができる音



鎮守の森コンサートのマスコットキャラクター

楽会でした。その後、ステージは拝殿、境内へと移っていきます。ロコミで観客が増えてきたためです。最初、十数人だった聴衆は、数年後には四百人にもなっていました。

第五回のコンサートからは、篝火を焚いての夜のコンサートとなりました。そして伝説となった日がやってきました。第七回、平成九年（一九九七）

五月十日、メインゲストは西岡恭三と大塚まさじの二人。フォーク界で知らない人はなく、フォークに興味ある私達の世代では憧れの人達です。夜の七時頃からメインステージが始まり、いよいよ佳境に入ってきたときでした。なんと、ムササビが何匹となく空中を滑空したのです。まさに乱舞！西岡さんは歌の途中で歌詞を変え、「ムササビ、ムササビ」をメロディにのせて連呼。聴衆も夜空を見上げたり、一緒に「ムササビ」を歌ったりして騒然となり、もう何のイベントなのかと分からなくなるくらいでした。

コンサート最後の開催は平成二十二年。この年までに、有山じゅんじ、佐川満男、大島保克、春待ちファミリアバンド、シェリフ、美穂蘭、等々、私達の世代では超有名なミュージシャン達が出演してくれました。

さて、その後、ムササビは？大型化したいくつかの台風襲来により、神社の森の木々も多く倒れ、うつそうとしていた森は、当時よりはるかに隙間だらけになり明るくなりました。そのためか、ムササビはねぐらを失い、どこかへ移っていったようです。

グルーとか、ギヤーとか聞こえるムササビの鳴き声も毎晩聞こえていたのが、今は静かです。ときたま、「ホー、ホー」「ウツホ、ウツホ」と聞こえるフクロウやミミズクの鳴き声に交じって、「ギヤー」という鳴き声が聞こえます。エサを求めてやってきているのかもしれませんが。再びねぐらとなる森になるのでしょうか。その日が来るのを首を長くして待っています。

八百万の神々

たきり びめのみこと
多紀理毘売命

いちきしまひめのみこと
市杵島比売命

たきつ ひめのみこと
多岐都比売命

福岡県の宗像神社は、沖津宮に田心姫神、中津宮湍津姫神、辺津宮に市杵島姫神を祀ります。よって三女神をあわせて宗像大神または宗像三女神と呼びます。

多紀理毘売命は別名を田心比売命または奥津島比売命といい、大国主命と結婚した女神です。

市杵島比売命は、神が「斎く（宿る）島」の意で、七福神の弁才天と習合したので弁天様とも呼ばれます。

多岐都比売命の「たぎつ」とは水が激しくさかまき流れる意で、「激流の女神」として玄界灘の波浪を表したものと考えられています。

三女神は、航海安全、交通安全の神として崇敬されています。

本宮所蔵品

たどしき
多度式

かえてばちらしそうちようきよう

楓葉散双鳥鏡

多度式とは、奈良時代に開創された多度神宮寺の故地である多度神社の境内から出土した形式の鏡をいいます。江戸時代の明和七年（一七七〇）

に、銅鏡三十面と剣一口、陶器十五個、錢貨一枚が発見され、その後、経筒の断片も発掘されたことから、かつてこの地に経塚が営まれたことが知られるようになりました。

発見された三十面の銅鏡には、平安時代の種々様々な形式のものが含まれ、山形県羽黒神社の神池から発見された羽黒鏡に対して、多度鏡と呼ばれ、我国の金工史上貴重な遺品としてよく知られています。

多度式の鏡は、平安時代後期（十二世紀前半）に隆盛した鏡です。本社には鎌倉時代初期に製作されたと推定

されている「楓葉散双鳥鏡」が一面保管されています。文字通り、楓の葉が散りばめられ、二羽の鳥が配置されています。鳥は雀であると思われます。

直径は約9cm、厚さは約1mmの銅鏡です。この頃の鏡は小さくて薄く、日本風の図柄（松、菊、鶴、雀など）になっ

ていることから和鏡と呼ばれます。この時代の鏡は生活の中で使われていたものとは違い、祭祀で使われたり、神殿に納めたりするための鏡でした。よって、この鏡も当時の本殿か、他の社殿に安置されていたものと思われる

ティータイム講座を
開催します

五條文化博物館では、市内の歴史や文化にふれるイベントを開催します。そのうちのひとつ「ティータイム講座」では神社に関する講話を行います。今回は「御霊信仰」をテーマに市内に十三社に分かれた謎を探ります。

○ティータイム講座

五月三十日（日）午後二時～三時
場所 博物館研修室

参加費不要ただし入館料三百円要
問合せ・申し込みは博物館受付専用
ダイヤル（30）4761まで。



イノシシに
襲われました

四月中旬に、大塔町に行きました。大塔町に鎮座する神社の狛犬調査のためです。まもなく目的の神社に着く少し手前で、道路にイノシシが出てきました。体格はそう大きくありません。三十mほど手前で車を止め、山に入るのを待っていました。が、そのイノシシはこちらにやって来ます。どうも後ろ脚をケガしているようです。ふらふらしながらも近寄ってきて、最後の数mは突進してきました。ガン！という音とともに車体が揺れました。その次の瞬間、助手席側の窓にイノシシの顔が！立ち上って私を見たイノシシは、すぐに倒れてしまいました。すぐに車を動かしその場を離れました。幸いイノシシは追ってきません。（追えなかったというのが正しい）もし大きなイノシシなら、ケガをしていなかったら、車でなかったなら、と思うと恐ろしく思いました。

Instagram
@goryohongu



#御霊本宮 #goryohongu を
付けて投稿してください。

公式ホームページ

<http://goryojinja.or.jp>

Twitter
@goryohongu



日本書紀にみる

十一代 垂仁天皇(四)

天皇は、上毛野の君の祖である八綱田に、狭穂彦を討つように命じました。

狭穂彦は軍を起こして防ぎました。急いで稲を積んで城塞としました。それがなかなか破れませんでした。これを稲城といひます。

月がかわつても降伏しませんでした。皇后は悲しんで、「私は皇后といつても、兄王をこんなことで失つては、何の面目があつて天下に臨めようか」と言いました。そして、王子である誉津別命を抱いて、兄王の稲城の中に入りました。

天皇は軍勢を増やし、完全に城を取り囲み、「速かに皇后と皇子を出しなさい」と言いました。それでも出てこないで、八綱田は城に火をつけました。

そこで皇后は皇子を抱いて、城の上

を越えて出てきました。そして、「私

が兄の城に逃げ込んだのは、もしかしたら私と子のために、兄の罪を許されるかも知れぬと思つたからです。許さ

れないならば、私に罪があることを知りました。捕われるよりは、自殺をいたします。私は死んでも天皇の御恩は

忘れません。どうか私がやつていた後宮の仕事は、良い女の人にさせて下さい。丹波の国に五人の婦人がいます。

貞潔の人たちです。丹波道主王の娘です。(道主王は、開化天皇の子孫の彦坐王子。また他の説では、彦湯産隅

王の子とされる)後宮に召入れて使つて下さい」と言いました。天皇は聞き入れました。

火は燃え上がり、城は崩れて軍卒はことごとく逃げ出しました。狭穂王と妹は城の中で死にました。

天皇は八綱田の功を褒めて、名を授けました。これを倭日向武火向彦八綱田といひます。

(次号につづく)

統神社境内社

木花開耶姫神社 竣功 市杵島姫神社

去る平成三十年九月の台風で倒壊した木花開耶姫神社と市杵島姫神社の二社が、このたび竣功しました。

氏子の井之本得良さんと、寝屋川市の本本さんからの御寄進に寄り再建することができました。また、再建にあたり、御霊神社本宮の氏子である仲山英徳さんのご奉仕をいただきました。五月に竣功祭ならびに遷座祭を執



竣功した市杵島姫神社(左)と木花開耶姫神社

万葉の花たち

よもぎ(ヨモギ)

大君の…ほととぎす 來鳴く
五月の 菖蒲草 蓬かづらき
酒みづき…(長歌)

大伴家持(巻十八・四一六)

大伴家持が越中国
守であつたときの天

平二十年(七四八)

十月頃、久米朝臣廣

縄が都に旅立ちます。

帰つてきたのは翌年の五月でした。

「年が変わり月日が過ぎても会えない。ほととぎすが来て鳴く五月の菖蒲草や蓬を縵(髪飾り)にして、酒宴をして気を落ち着かせようとしたが…」「やつと帰つて来て、私と逢つてくれた。鏡を見るようにいつもこうして変わることもなく微笑んで会っていたと思う。」

家持の優しさが伝わる歌です。

